

質問（質問者氏名は個人情報保護の観点から掲載を控えております）	回答（敬称略）
<p>1</p> <p>【誰に対する質問か】登壇の3名の方</p> <p>【質問内容】教育の質保証・学修者本意の教育という認識を、教育をする側(大学側)が強く持っていることはものすごく大切だと思います。しかし、そもそも自身が学びの中心であるという自覚を持って意欲的に学んで行こうとする学生はほんの一部のように感じています。だとすれば大学側の改善・新しい取り組みはこのような、意識が高い学生にしか響かないように思ってしまう。学生からのアンケート結果から、教育方法や内容を改善していけるようですが、アンケートに答えている学生は比較的学習意欲が高い学生だと思います。アンケートの結果に反映されていない学生(学習意欲が低めな学生、なんとなく大学に通っている学生)への働きかけが今後より必要になってくると思いますが、この点に関してましてどのようにお考えでしょうか。</p> <p>また、この点に関しましてすでに何か取り組みなどされていまして具体的に教えていただきたいです。</p>	<p>【大森】</p> <p>ご質問いただきありがとうございます。</p> <p>まず、アンケートについてですが、本学では年に1度大きな学修行動や満足度、成長感等を問うものを実施していますが、回答率は9割を超えます。それは、学生に対面で回答をしてもらっているからで、そういう機会を作ることも重要だと思います。授業ごとの授業アンケートも同様です。</p> <p>次に学修意欲の問題です。このことは、ユニバーサル段階にある各大学共通の課題ですね。ただ、学修意欲に乏しい人がそのまま社会に出るのではなく、大学に来てくれて良かったなと思います。大学は社会に出る前の最後の砦ですので、その人たちがそのまま社会に出るより、当人にとっても、社会にとってもプラスのことといえると思います。</p> <p>とはいえ、どうしたらよいのか、明確なソリューションはありません。地道に取り組むしかないというのが現状でしょう。</p> <p>本学の海外研修を例にとってみます。海外研修は意欲がないとなかなか参加できないものです。コロナ前のTHEのランキングでは短期を含む研修参加率が全国2位になったことがあります。約半数の学生が何らかの研修に参加していたからです。しかし、本学の学生の9割は群馬県出身。群馬から出たことさえない、1度も飛行に乗ったことがない学生がほとんどです。その学生たちに、ポスターを張っただけでは、なかなか一歩を踏み出させません。そこで、オープンキャンパスの時点で在学生在がいろいろな体験を通しての成長物語を語ってくれたり、入学前の集合研修で、様々なプログラムの説明をしたり参加した先輩の話や先輩の話を聞く機会を設けたり、入学後は担当者が初年次ゼミを回って話をしたり、コースによっては独自にゼミの中で先輩の体験談を聞く機会を設けたりしながら、参加を促していきます。プログラムも短期間で、アルバイト代でも参加できる入門的なものから、かなりハードなものまで段階を設定して用意したりもしています。小さなチャレンジでも一度踏み出せると、後は学生たちも自走できているように思います。</p> <p>また、1年次必修のキャリアプランニングの授業では、本学の学びの特徴（意欲を持って取り組む海外や地域における実践型の学修等々）や大学で学ぶことそのものの意義についても学んでいきます。同時に、当日のご質問に回答したように、様々な機会をとらえて目標である共愛12の力についても学生たちと共有していきます。そして、学生自身が自身の成長を確認していくプロセスもまた、意欲の喚起に寄与するのではないかと考えています。</p> <p>すなわち、ご質問の中でおっしゃってくださっている通り、学生たちの学修意欲を所与のものにとらえずに、学修意欲を喚起して、自律的な学修者に育ててもらえることも含めて大学教育だし、社会に送り出す前の大学の大切な役割だと、私たちも考えているところです。ちょっと大変ですが・・・(^ ^)</p> <p>【松本】</p> <p>ご質問ありがとうございます。</p> <p>ご指摘の「学生の学習意欲」の濃度差については、多くの高等教育機関における共通の課題認識であり、重要な論点であることはご指摘のとおりです。本学の私が関与している学内委員会においても、実際にアンケートに答えている学生の学習意欲に関する実態像や成績分布および学習環境等を踏まえた分析から、大学としての学生に対する「働きかけ」の方向性について検討しています。</p> <p>一般的な意見の1つとして、教育や授業に対して「前向きな人がアンケートに回答しているのでは？」との意見も散見されますが、これは、大学の特色や各種アンケートの実施方法、時期に一部、依存する場合があります。本学では、各学部での独自アンケートや「学生生活の実態」等の各種アンケートやヒアリングも実施されています。これらの情報を1つ1つ丁寧に精査しながら、各種の影響因子を十分に考慮した、情報提供が出来ればと考えています。</p> <p>また、本学においては、大学の全学的な制度として、多くの学生が、より主体的な学習に移行できるように「学習サポートアシスタント」をはじめ、「授業支援アシスタント」、「学部チューター」、「留学生サポーター制度」等があり、上級生による下級生への学習活動のサポートや、学生同士の学びあいによる修学支援の場を全学の各所に展開することで、学生を主体とする学習支援の充実も図られています。</p> <p>このように、学生・学科・学部および大学が組織的に学生に対して「働きかけ」を継続的かつ組織的に行うことが重要であると個人的には考えております。</p> <p>【参考ホームページURL】  <a href="https://www.hosei.ac.jp/gakuseishien/">https://www.hosei.ac.jp/gakuseishien/</a></p>

【川瀬】

ご質問ありがとうございます。

意欲的に学んでいこうとしない一部の存在は理解できますし、実は私もその一人でした。特に2年の時に、なんとなく大学行ってるな、と思いながら過ごしていましたが、多くの友人・教員などと学びあい、刺激を受けるなかで、学ぶことの楽しさや知的な感動を味わったことを思い出します。なので、多くの方にはオンラインだけではなく、リアルでの学びや、ある意味で非効率的な学びを（遊びも）意識的に多く経験してほしいと思っています。私も、学生のみなさんが最高のパフォーマンスが出せる環境を創っていきたいと思っています。

そして、学習意欲の低い学生がアンケート結果に反映されていないのではないかと可能性はあると思います。私もアンケート結果だけで判断するのは無理があると思っていますし、違うデータや生の声も大事にしたい。では、そういった学生への働きかけをどうしていくのか。新たな取り組みとして、学習履歴の活用した支援を考えています。LMS等をベースとした学びなど、コロナ禍で、対面・オンラインに限らずデジタル技術を活用した学び方に変化しました。LMS等にはログがあって、しばらくアクセスがない、動画を全部見ていない、ある科目は積極的に学んでいるといった個人別のログがあります。それらを解析・活用して、例えばアクセスない学生には声をかけ、積極的に学ぶ学生には関連分野の情報を提供する。そういった支援の展開を考えています。

以上